

# 設立記念講座



## 千葉市に 最高の教養講座 3月 開講

日時 令和7(2025)年 3月18日～21日の4日間  
14:00～15:50(休憩含む)

「文化創造アカデミー」の設立を記念し、3月の4日間、日本を代表する最高の学者による“最高の教養講座”をお届けします。各分野の入り口に立って、それぞれの世界を概観し、5月以降の個別講座につながります。またとない機会に、是非、ご受講下さい。

第1回 18火 上代文学の入り口に立って  
講師 東京大学名誉教授 多田 一臣氏

第2回 19水 源氏物語の扉をひらく  
講師 フェリス女学院大学名誉教授 三田村 雅子氏

第3回 20木 江戸文学の入り口に立って  
講師 東京大学名誉教授 長島 弘明氏

第4回 21金 世界史の入り口に立って  
講師 東京大学名誉教授 木畑 洋一氏

会場 千葉市文化センター5階 セミナー室  
千葉市中央区中央2-5-1 (JR千葉駅から徒歩約10分)

定員 140名(先着順) 受講料 (4回分) 8,000円(消費税含む)

### ◎チケット購入方法

- 1 電話予約 窓口(☎043-306-7785)にお電話の上、「住所・氏名・連絡先電話番号」をお伝えください。
- 2 お支払い ご自宅に「受講料の振込先」等の案内書を郵送いたしますので、受講料をお支払いください。その際振込手数料はお客様負担となります。
- 3 受講券受け取り 振り込みが確認でき次第、受講券を特定記録郵便で郵送いたします。受講当日、受講券を受付に提示してください。

# 講師紹介



東京大学名誉教授  
ただ かずおみ  
**多田 一臣氏**

## 「上代文学の入り口に立って」

古典を読むことの意味が、次第に見えにくくなっています。でも、古典はいまこそ読まれるべきなのです。上代の文学、『万葉集』や『古事記』を読むことは、上代の人びとが、この世界のありかたを、さらにはそこに生きることの意味をどのように捉えていたのかを知ることでもあります。私たちと重なることも違うところもあります。そこが実におもしろい。『万葉集』や『古事記』の具体例をいくつか取り上げて、そのおもしろさに迫ってみたいと思います。

**プロフィール** 東京大学大学院修了。博士(文学)。千葉大学助教授、東京大学教授、放送大学客員教授、二松学舎大学特別招聘教授などを歴任。現在、東京大学名誉教授。著書に、『日本霊異記』(筑摩書房)、『万葉集全解』(全7冊、筑摩書房)、『古代文学の世界像』(岩波書店)、『柿本人麻呂』(吉川弘文館)、『古事記私解 I II』(花鳥社)、『万葉樵話』(筑摩書房)、『山上憶良』(花鳥社) などがある。



フェリス女学院大学  
名誉教授  
みたむら まさこ  
**三田村 雅子氏**

## 「源氏物語の扉をひらく」

源氏物語は長く壮大なので、尻込みされる方も多いと思いますが、一巻一巻の読み切りのつもりで読んでいくと、やがてその魅力に捉われ、読み続けたいではいけない作品です。

古文は、最初はむずかしいように思いますが、馴れてしまえば、やはり日本語なのだと思えるでしょう。

源氏物語を楽しく生き生きと体感できる場を提供します。どうぞ一緒に挑戦しましょう。

**プロフィール** 早稲田大学大学院修了。上智大学教授、フェリス女学院大学教授を経て現職。『源氏物語』と『枕草子』を主な専門とし、幅広い観点から古典文学を捉える。NHK教育テレビの高校講座「古典への招待」で長年講師を務めた。著書に『源氏物語 感覚の論理』『枕草子 表現の論理』(有精堂)、『源氏物語絵巻の謎を読み解く』(三谷邦明との共著・角川選書) ほかも多数。令和7年『歌会始』の召人に選ばれた。



東京大学名誉教授  
ながしま ひろあき  
**長島 弘明氏**

## 「江戸文学の入り口に立って」

江戸文学は言葉も近代に近く、親しみやすい古典であるが、そのよりよい理解にはいくつかのポイントがある。①江戸時代に即した習俗や考え方を知ること、②文章や作品構想に生かされている江戸時代以前の古典に目を凝らすこと、③読解の補助線になる絵画資料がある場合が多いのを念頭に置くこと、である。これらのポイントの有効性を具体的に確かめるために、芭蕉の「古池や」の句をはじめ、誤解されている有名句を再考してみたい。

**プロフィール** 東京大学大学院を経て、東京大学助教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授。2019年、東京大学を定年退職、名誉教授。また、2019年から2024年まで二松学舎大学特別招聘教授。専門は江戸時代中期の文学。著書・編著書に、『雨月物語』(岩波文庫)、『雨月物語の世界』(ちくま学芸文庫)、『秋成研究』(東京大学出版会)、『上田秋成の文学』(放送大学教育振興会) ほかも多数。



東京大学名誉教授  
きばた よういち  
**木畑 洋一氏**

## 「世界史の入り口に立って」

新型コロナウイルスの蔓延、ウクライナ戦争、ガザ戦争、さらには韓国での戒厳令事件に象徴される民主主義の危機など、ここ数年、世界の状況は混迷の度を深めている。こうした事態が人類にとって何を意味するかを考えてみるためには、その歴史的・世界史的背景をしっかりと把握することが必要である。この講義では、グローバル・ヒストリーなど歴史学における近年の新たな議論に注意を払いつつ、世界史というものへの接近の仕方を考えてみたい。

**プロフィール** 東京大学教養学部卒業。東京大学大学院を経て東京大学助教授、東京大学大学院総合文化研究科教授、成城大学教授。現在は東京大学・成城大学名誉教授。専門は国際関係史、イギリス帝国史で、とくにイギリス帝国の歴史とその解体過程がもたらした諸問題に関心をもっている。著書に、『支配の代償: 英帝国の崩壊と「帝国意識」』(東京大学出版会)、『二〇世紀の歴史』(岩波新書) ほかも多数。



文化創造アカデミーは、日本を代表する国文学者、歴史学者、科学者及び芸術家を講師に招き、最高の教養講座を実現すべく、2024年に立ち上がった特定非営利活動法人です。3月の設立記念講座に続き、本年5月以降に本格的に各講座を展開する予定です。どうぞご期待ください。